

能登のバス会社が直面する2つの課題についての検討 ～運転手の確保と、企業として震災後の能登地域にできること～

団体名●野林ゼミナール／代表者名●野林晴彦（経済学部経営学科・教授）

はじめに(背景・目的・目標)

2年次野林ゼミは共創インターンシップに参加し、協力企業の株式会社丸一観光様から提示された「2つの課題テーマ」に取り組んだ。

テーマ1は「バス運転手の確保に向けた打ち手」であり、業界全体で大きな課題となっている人材不足に対し、未来を見据えてどのような手を打っていかけるかの検討である。またテーマ2は、能登に本社のある企業として、震災の影響が残る能登エリアにおいてできることは何かを検討する「企業として、地域のためにできること」である。この2つのテーマについて、それぞれ2グループに分かれ調査分析と提案検討を行った。

活動内容

1)課題提示(9月23日)

株式会社丸一観光 木下恒喜専務に大学にお越しいただき、会社を取り巻く環境と現状の説明と、それに基づく2つの課題テーマについて提示を受けた。

2)グループ別検討①(9月30日～11月10日)

2つの課題テーマについて、それぞれ2グループに分かれ、検討を行った。方法としては、現状の概要を調べ、他社や他地域での成功事例を確認し、それぞれの提案内容の検討を進めた。

3)中間報告とアドバイス(11月25日)

オンラインにて木下専務に参加いただき、それぞれ検討した内容について中間報告を行った。木下専務からは、さらに枠にとらわれないアイデアの創出や、地域イベントの資金の集め方の検討などさまざまな具体的なコメント・アドバイスを受けた。

4)グループ別検討②(12月2日～1月6日)

木下専務からのコメント・アドバイスをもとにさらに提案内容の検討を重ね、発表準備を行った。

5)最終報告会(1月13日)

丸一観光 木下専務に出席いただき、学内にて最終報告会を実施した。数か月間検討したそれぞれのグループの提案内容を発表し、木下専務からの講評を受けた。



1月13日 最終報告会

成果、結果の考察

テーマ1では、AI顧客対応サービスの導入や運転のリレー方式の標準化、女性・若者運転手の求人対策等が提案された。また、知名度向上のための「走るシアターバス」企画については、木下専務から非常にユニークで枠にとらわれないアイデアであるとの評価を受けた。

テーマ2では、子育て世代を対象とした「復興ツアー」や、地域貢献イベントの企画とそれに伴う「七尾マルシェ」の提案を行った。音楽フェスを中心とした地域貢献イベントでは、チケットや飲食出店料に加え補助金・協賛金を含めた資金試算も行った。

ゼミ生にとって、実際に地域の企業としての立場に立ち、分析と企画立案を行うという、非常に貴重な学びの機会であった。

今後の課題、展望

今後、ゼミ生たちは、今回学んだ考え方・視点をもとに卒業研究に取り組み、また将来の仕事につなげてもらいたい。

多大なご支援・ご協力をいただいた丸一観光 木下恒喜専務に、心より感謝申し上げます。